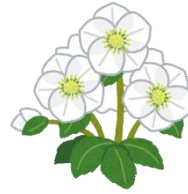


アカデミア通信

第2号
2015年12月12日
大妻多摩中高図書室

大妻多摩中高のウェブサイト上で、図書室・自習室の360°パノラマ写真が見られます。全方位の写真を撮って、コンピュータで組み合わせて作るのだそうです。みなさんがよく座るのはどの席でしょうか。探してみてくださいね！



1. 2015年度11月の貸出数

	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
11月	148	20	38	28	22	127	383
今年度累計	567	210	149	109	143	363	1541

11月の個人貸出数ランキングは、1位38冊(中1-3)、2位17冊(中1-1)、3位13冊(中1-3)、4位10冊(高3-1)、5位9冊(高3-4)、6位8冊(中1-1、高1-2)です。

2. 冬休み貸出・開室日について

毎回好評の冬休み貸出が始まりました。

ひとり5冊まで
返却日 1月8日(金)

いつもより多く長く借りられるこの期間、ぜひたくさん読書してくださいね。早く読み終わった場合は別の本を借り直すこともできます。(※赤本などの入試関連本は、12月17日から、ひとり3冊までです)

冬休みの開室日

12月21日(月)	10:30~17:00
12月22日(火)	10:30~17:00
12月24日(木)	10:30~17:00
12月25日(金)	10:30~17:00
1月6日(水)	13:00~17:00
1月7日(木)	10:30~17:00



自習室が単独で開室する日はありませんので、間違えないように気をつけてください。

3. 「扉のむこう」の本が多数入りました

「扉のむこう」、「社会科学習の手引き」で紹介されている本が、ほぼ全部揃いました。検索機で調べると、所蔵場所が「推薦」と出てくるようになっています。中央通路左奥の常設コーナーにまとめて置いてあります。



4. 図書室で妖精に出会えます!?

新しいフェアが始まりました。

不思議な世界～妖精編～

〈陰陽師編〉に続いて〈妖精編〉スタートです。妖精というと、皆さんがイメージするのは『ピーターパン』のティンカーベルでしょうか？ほかに『シンデレラ』のフェアリー・ゴッド・マザーや、『ピノキオ』のブルー・フェアリーなど、実は妖精はいろいろな物語で大活躍しています。日本の妖精コロボックルを描いた『だれも知らない小さな国』もおすすめですよ！



めくるめく〈アリス〉の世界

2015年は『不思議の国のアリス』出版150周年です。繰り返される言葉遊びや、ナンセンスな展開。よく読むと、お茶の習慣や、学校でフランス語を習っている話など、当時の世相を反映した描写がたくさん出てきます。ヴィクトリア朝関連、紅茶、ファッションの本などもあわせてどうぞ。



《ゲゲゲの鬼太郎》は、どこから来たの?～水木しげるをしのんで～

先月93歳で他界した水木しげるさんをしのんで、コーナーを作りました。日本には幽霊や妖怪の伝承がたくさんあります。そして、そういった民話や古典作品が、鬼太郎の世界に大きなヒントを与えました。けっこうかわいい妖怪もいますよ。

5. 自習室について

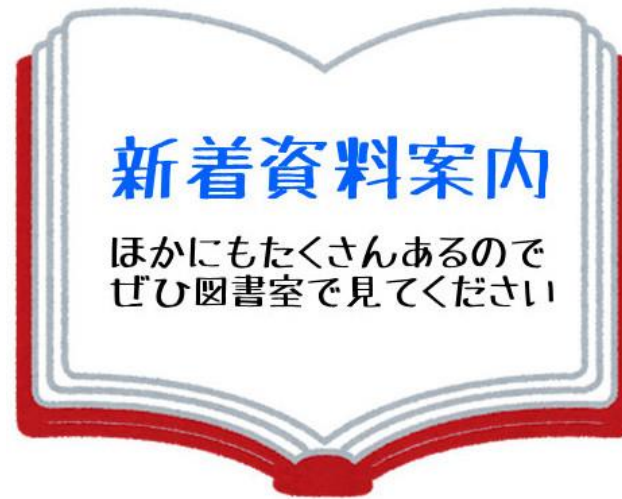
現在、自習室の北側(校舎側)は暖房を弱めてあります。暖房が苦手な人はこちらのスペースを利用してください。広いスペースなので温度管理が難しくはあるのですが、できるだけ希望に応えたいと思いますので、何かありましたら2階の図書室準備室まで知らせてください。

3学期の間、奥の高校3年生専用エリアは、どの学年でも利用できるようになります。譲り合って使いましょう。

『誰もが知ってる小さな国』

有川浩著 講談社 913.6/A71

ヒコの両親の仕事は「はち屋」——蜂を育てて蜜をとること。だから一家は、夏の時期だけ北海道に移り住む。小学3年生の年、はち屋の女の子が同時に転校してきた。その年はまた、コロボックルとの素敵な出会いの年でもあった……。佐藤さとるの名作〈コロボックルシリーズ〉を有川浩が書き継ぎました。



『男の掃除』佐光紀子著

日経BP社 579.9/Sa43

題名から、女子には関係ないと思いませんか？ いえいえ。この本は、掃除を理詰めで説明していく内容になっています。「トイレの神さま」も大事ですが、化学的・論理的に考えたい人には、納得のいく掃除の仕方だって重要なこと。年末に向け、意外と必要な一冊になるかも！

『思わず話したくなる ロゴの秘密』

高橋書店 335.21/Ta33

あのコンビニ、あのスポーツグッズ、あのお店……さまざまな会社が持っている《ロゴ》。400点以上のロゴの、歴史や由来などが収録された1冊です。昔は、こんなマークだったんだと、変化を見ていっても面白いです。

『日本文学全集 11』池澤夏樹＝個人編集

河出書房新社 918/N77/11

この全集で取り上げる古典文学の訳者たちが、実に豪華で意外性が高い！ この巻は、江戸時代の小説が載っています。個性的な作家ぞろいですが、とても読みやすいです。特に、怖い話が読みたい人は、円城塔訳の『雨月物語』を読んでみてはいかがでしょうか？

『東京百景』又吉直樹著 ヨシモトブックス 914/Ma71

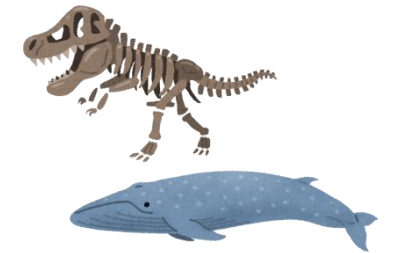
芥川賞を受賞したピース又吉のエッセイ。『火花』に登場する先輩芸人や、エピソードの元ネタなどが書かれています。東京各所を舞台に、淡々とした文章で、不思議な行動が綴られています。時々出てくる妄想話にも、思わず笑いが……。



『国立科学博物館のひみつ』成毛眞・折原守著

ブックマン社 406.9/N53

上野にある国立科学博物館（通称・科博）が、7月にリニューアルオープンしました。展示してある資料はもちろん、美しい西洋建築も見どころのひとつです。この本を手にも、ディープな科博を楽しみましょう。これまでの特別展のポスターも全て掲載されています！



『バッハ インヴェンション 分析と演奏の手引き』

小鍛冶邦隆ほか著 ハンナ 763.2/B13

ピアノを習っていると避けては通れない、バッハのインヴェンション。もとは、演奏技術と作曲の教育目的で書かれた小品です。主題や展開などが楽譜に書き込まれていて、緻密に計算された曲の構成を知ることができるでしょう。楽譜としても使えます。シンフォニア編もあり。

『給食のおにいさん』

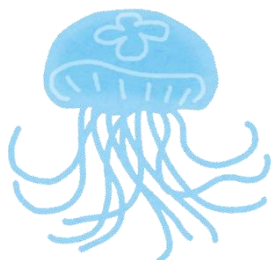
遠藤彩見著 幻冬舎文庫 913.6/E59/1

コンクールで優勝するほどの料理人・佐々目宗は、ある事情によって給食の調理員になることに。子ども嫌いで口も悪い佐々目だが、子どもたちとのふれあいの中で、しだいに心を変えていく。いいセリフ満載です。

『日本クラゲ大図鑑』峯水亮ほか著

平凡社 483.3/Mi42

最近のクラゲ人気により、水族館のクラゲ展示も充実してきているそうです。透き通ったからだに、きゃしゃな触手……。神秘的なその姿に癒されます。18年かけて撮影したという写真がとても美しい本、ぜひ手に取ってみてください。



『シャーロック・ホームズの冒険』

アーサー・コナン・ドイル著 光文社文庫 933/D89/1

世紀末のロンドン。奇妙な事件が多く発生し、市民を脅かしていました。シャーロック・ホームズは、現場に残された手がかりから、鮮やかに事件を解決していきます。世界中に〈シャーロックイアン〉と呼ばれる熱烈なファンがいる大ベストセラー、読みやすいと評判の日暮雅道訳の文庫本を揃えました。

